

英語利用中学入試 テスト分析

※攻玉社中学校(帰国生)※

～概要～

- ・試験形式：Reading（読解）、Grammar（文法語法）、Listening（講義形式）の3部構成。：読解・文法・リスニングがバランスよく配置されており、総合的な英語力が問われる。
- ・設問概要：[I] Reading Section：2つの大問で構成。1つ目は物語文（教会での出来事）、2つ目は時事的な説明文（COVID-19と教育格差）。空所補充、整序、内容一致に加え、日本語で具体的に説明する記述問題が含まれるのが特徴。：[II] Grammar Section：誤文訂正問題。文中の下線部から誤りを選び、たった1語で正しく書き直す形式。正確な文法知識が必須となる。：[III] Listening Section：5つの異なるTalkを聞き、各4問（計20問）に答える形式。講義内容などのアカデミックな聞き取り力が求められる。
- ・時間配分予想：Readingの日本語記述と、Grammarの訂正箇所の特定に時間がかかる可能性がある。Listeningの比重も大きいため、前半のReadingをスピード的に処理するペース配分が重要。

～[I] Reading Section(読解)～

- ・形式：物語文（教会の用務員の話など）と、時事的な説明文（COVID-19と教育など）の2題構成。
- ・問題数：物語文9問、説明文9問。
- ・ポイント：物語文では、文脈に合う形容詞の選択（obscure, obedientなど）や、心情理解（なぜ当惑しなかったのか等）が問われる。説明文では、パラグラフ整序や、文脈に即した単語の変形（例：pressure→pressuredなど）など、文法・語彙の運用力も試される。

～[II] Grammar Section(文法語法)～

- ・形式：文中の下線部ア～エから誤りを選び、1語で正しく書き直す。
- ・問題数：10問。
- ・ポイント：正確な文法知識が必須。例えば、不可算名詞の扱い（homeworks→homework）、接続詞と前置詞の使い分け（during→while）、自動詞・他動詞の区別（lay→lie/laid）など、日本人が間違えやすいポイントが頻出。

～[III] Listening Section(リスニング)～

- ・形式：5つの「Talk」を聞き、それぞれの内容に関する質問に答える。
- ・問題数：各Talkにつき4問、計20問。
- ・ポイント：「様々なLectureの内容を問う」とあり、アカデミックな内容やまとまった長さの話を聞き取るスタンダードと集中力が必要。

～総評～

- ・傾向と対策：読解では、古典的な物語文の心情読解と、最新の時事問題（オンライン教育、パンデミックの影響）の両方に対応できる幅広い教養が必要。：文法問題（誤文訂正）は配点も高く、正確な知識がないと解けないため、文法書の徹底的な復習が有効。：インターTOMASでは、物語文特有の表現や心情描写の読み解きに加え、文法的な精度を高めるための演習を徹底します。